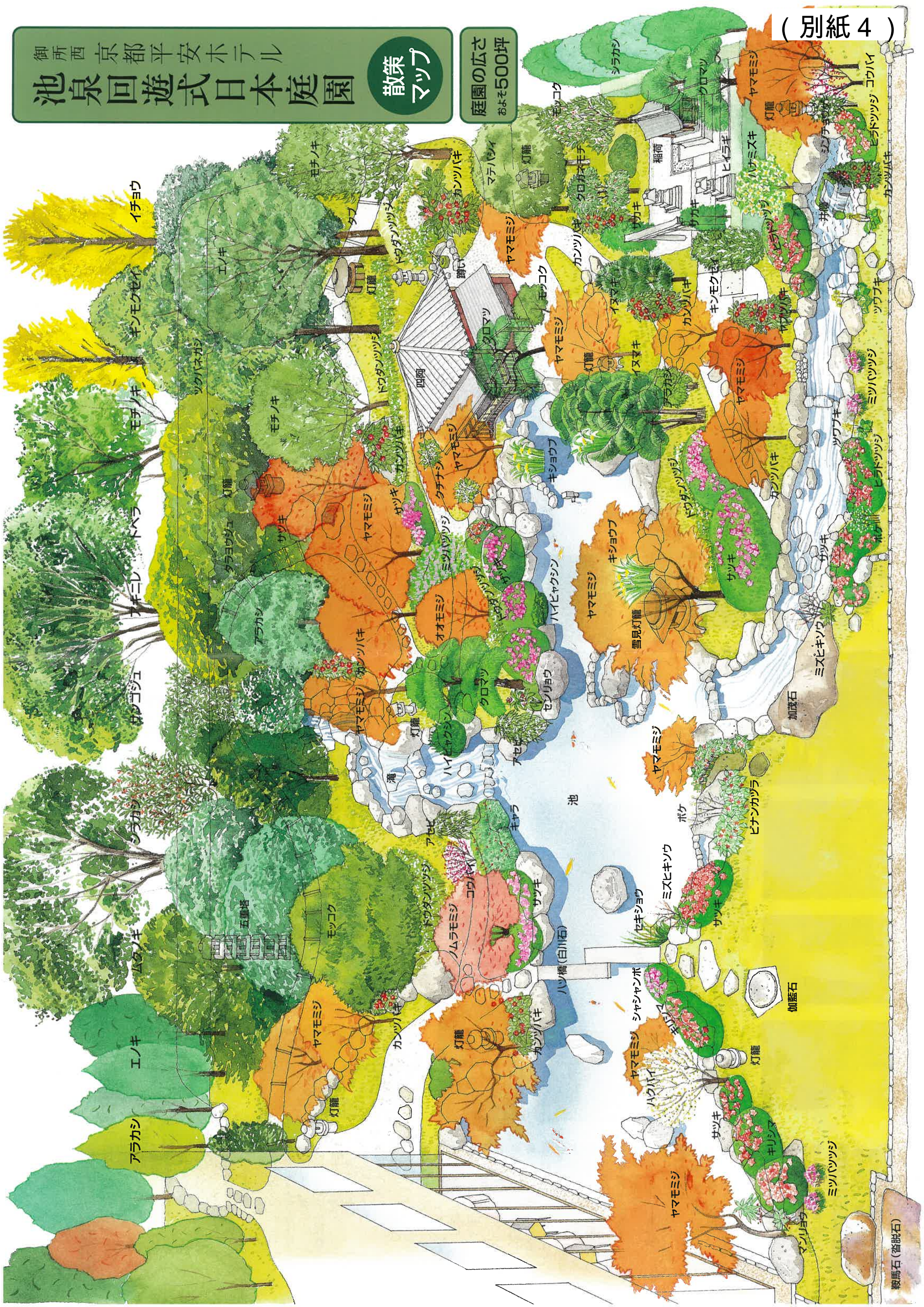


池泉回遊式日本庭園

マッパ
散策

庭園の広さ
およそ500坪



御所西 京都平安ホテル 池泉回遊式日本庭園

庭園面積／およそ500坪

京都平安ホテル 敷地の変遷

【平安時代】
天皇の台所を預かる内膳司に勤務する役人の宿舎である内膳町が置かれる。

【戦国時代】
織田信長の築城による旧二条城に関係あり。

〈旧二条城は、当館の南方にあったと推定されているが、当館の敷地からも石仏を転用した石室や織田家の紋所である木瓜文等が出土したことから、関係していたことがうかがえる。〉

【安土桃山時代～江戸時代】
糸商人松屋三郎右衛門が居住。
〈「慶長九年白米六十斤入」等と書かれた木札が出土

【江戸時代～明治時代】
公家屋敷が置かれる
〈宝永二年1705年京町絵図によると「九条大納言御連中」とある一御連中とは御夫人の意〉
〈慶応四年1868年京町絵図によると「醍醐殿」とあり醍醐家は清華家の家柄であり、公家の中では上の下に位置する〉

【明治時代以降】
日の出新聞（戦後京都日々新聞と合併し、今日の京都新聞となる）社長所有、長瀬産業社長所有、その後、現在に至る。

京都平安ホテル 日本庭園の築造

公家屋敷の時代以前より、庭はあったと推定されるが、大正11年に近代日本庭園の先覚者と呼ばれる小川治兵衛の手により大改造され、今に残る。

〈小川治兵衛の作庭〉
平安神宮神苑
京都国立博物館
山県有明「無鄰庵」
南禅寺
桂離宮、修学院離宮、二条城庭園の修築



小川治兵衛氏作の日本庭園
この庭園は、公家屋敷の庭園として江戸時代後期に造られた池泉回遊式（ちせんかいゆうしき）の本格的な庭園です。
その後、大正年間に近代日本庭園の作庭で名高い小川治兵衛氏の手により改修され、昭和55年の平安会館（現京都平安ホテル）改築時に再度改修され、現在に至っております。
庭園の中央の池には石橋が架かり、滝が流れ落ち、また築山をもうけ、四阿（あずまや）を配し、周辺との調和を保っております。
また京都名産の鞍馬石や加茂石、白川石などを効果的に配し、その景観を見事にしています。



雪景色



灯籠

庭園内には15基の灯籠があります。池のほとりに置かれたひときわ立派な六角雪見灯籠をはじめ、春日灯籠、織部灯籠、山灯籠など様々な形の灯籠が配られています。



滝

滝には雄滝と雌滝がありますが、京都平安ホテルの庭園の滝は雄滝と呼ばれる造りで、自然の滝の音にできるだけ近づけるように工夫されています。

四阿（あずまや）

竹を中心に造られており、水屋は、北山杉を使用しています。内部に掛けられている額「龍鱗」は淡々斎宗室の手によるもので、老松や椿（あべまき）などの幹の皮が竜のウロコの形に似たものを表す言葉です。



アセビ



コウバイ
ハクバイ

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

花の咲く時期

- アキニレ（秋楡）
- アセビ（馬酔木）
- アラカシ（粗榧）
- イチョウ（銀杏）
- イヌマキ（犬槿）
- エノキ（榎）
- オオモミジ（大紅葉）
- カンツバキ（寒椿）
- キシヨウブ（黄芩蒲）
- キャラ（伽羅）
- クリシマ（霧島）
- キンモクセイ（金木犀）
- ギンモクセイ（銀木犀）
- クチナシ（梔）
- クロガネモチ（黒鉄綱）
- クロマツ（黒松）
- コウバイ（紅梅）
- サカキ（榊）
- サツキ（皇）
- サンゴジュ（珊瑚樹）
- シャジャンボ（小いん坊）
- シラカシ（白楡）
- ジンチヨウゲ（沈丁花）
- セキシヨウ（石菖）
- セリヨウ（千両）
- ツツブキ（石菖）
- タブ（楠）
- タラヨウジュ（多羅葉樹）
- ツクバネガシ（衝羽根榎）
- ドウダンツツジ（灯台つじ）
- トベラ（海桐花）
- ノラムモジ（野村紅葉）
- ハイビャクシン（這柏櫨）
- ハクバイ（白梅）
- ハナミズキ（花水木）
- ヒイラギ（栲）
- ビナンカズラ（美男葛）
- ヒラドツツジ（平戸つじ）
- ボケ（木瓜）
- マテバシ（馬刀葉椎）
- マンリヨウ（万両）
- ミズヒキノウ（水引草）
- ミツバツツジ（三葉つじ）
- ムクノキ（棕の木）
- モチノキ（麝の木）
- モッコク（木斛）
- ヤブツバキ（藪椿）
- ヤマモミジ（山紅葉）

使用素材一覧

- 白川石
- 鞍馬石
- 加茂石
- 北山杉
- 竹 など